



平成28年度
**介護ロボット導入
好事例表彰事業**

～介護ロボットの普及と利用促進に向けて～

受賞案件紹介



ガイドブック

主催 公益財団法人テクノエイド協会、厚生労働省

協力 公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人日本介護福祉士会
公益財団法人介護労働安定センター、高齢者住宅経営者連絡協議会
一般社団法人日本福祉用具供給協会

<http://www.kaigo-robotaward.jp/>

介護ロボット導入好事例表彰事業について

「介護ロボット導入好事例表彰事業」は、介護ロボットの普及・定着に向けて、介護事業者および開発メーカー、自治体、流通事業者や普及支援機関まで幅広く対象として表彰します。

1. 事業の目的

高齢化の進展に伴い介護費用の増加や人材の確保、職員の腰痛、認知症高齢者や老々介護世帯の増加等への対応が喫緊の行政課題となっています。

こうした中、政府が掲げた「日本再興戦略」に基づき、ロボット技術を介護の分野で活用すべく、介護ロボットの開発実用化に向けた取り組みがなされているところであり、厚生労働省と経済産業省が連携して特定した、重点的に開発する分野のロボットも続々と商品化されているところでもあります。

また、平成27年度より、医療介護総合確保基金を活用した介護ロボット導入支援事業及び、補正予算においては、介護ロボット等導入支援特別事業を活用することにより、介護の現場では、介護ロボットの導入が進められているところでもあります。

しかしながら、商品化された介護ロボットを活用した介護技術については、まだまだ開発の途上であり、十分に確立されていない状況にあります。

こうした背景を踏まえ、本事業では、介護ロボットの適切な利用を促すための事業者及び開発メーカー等の意識啓発に資することを目的として実施するものです。

2. 事業の名称

介護ロボット導入好事例表彰事業

3. 主催・協力

＜主催＞公益財団法人テクノエイド協会
厚生労働省

＜協力＞公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人日本介護福祉士会、
公益財団法人介護労働安定センター、高齢者住宅経営者連絡協議会、
一般社団法人日本福祉用具供給協会

4. 応募資格者

応募対象となる機関及び行政、事業者等については、以下のとおりとなります。

- (1) 効果的に活用している施設・事業所
- (2) 地域で高齢者の見守りを支援する事業を実施している行政
- (3) 介護現場のニーズを上手に採用したメーカー
- (4) 利活用の裾野を広げた、流通事業者又は普及支援機関 等

5. 今回表彰する部門

(A) 事業者部門

：効果的に活用している施設・事業所（在宅サービスも含む）

(B) 行政部門

：見守り支援機器等を上手く活用している市町村

(C) メーカー部門

：介護現場のニーズを上手に採用したメーカー

(D) 流通・普及支援部門

：利活用の裾野を広げた流通事業者又は普及支援機関

6. 分野

- (1) 移乗支援（装着・非装着）
- (2) 移動支援（屋外・屋内）
- (3) 排泄支援
- (4) 認知症見守り支援（施設・在宅）
- (5) 入浴支援
- (6) その他

その他には、介護者の負担軽減や高齢者等の自立支援、機能訓練等に資する下記の分野の機器を含むこととする。
機能訓練支援、服薬支援、認知症セラピー支援、食事支援、介護業務（掃除・洗濯・調理・記録等）等

7. 募集対象介護ロボット

既に商品化されており、介護現場での実用的な導入販売等の実績を有する下記の要件を満たすものとします。

目的要件（以下のいずれかの要件を満たすこと。）

- ・心身の機能が低下した高齢者の日常生活上の便宜を図る機器
- ・高齢者の機能訓練あるいは機能低下予防のための機器
- ・高齢者の介護負担の軽減のための機器

技術要件（以下のいずれかの要件を満たすこと。）

- ・ロボット技術（※）を適用して、従来の機器ではできなかった優位性を発揮する機器
（※）①カセンサーやビジョンセンサー等により外界や自己の状況を認識し、②これによって得られた情報を解析し、③その結果に応じた動作又は出力を行う
- ・技術革新やメーカー等の製品開発努力等により、新たに開発されるもので、従来の機器では実現できなかった機能を有する機器又はシステム

導入実績要件（応募する部門によって異なる。）

- ・応募時点において、商品化されている介護ロボットとし、かつ一定台数以上の導入や利用、販売の実績等を有すること

8. 表彰位

◆最優秀賞

全応募案件のうち、単に介護ロボットの利用というだけではなく新たな、次世代の介護を実現したと認められる介護ロボットあるいは介護ロボット活用普及団体等に対して交付します。

◆優秀賞

社会的なモデルとなるものであり、各部門で最も優秀とされる団体等に対して交付します。

◆好事例賞

介護ロボットの普及・定着や適切に利用、さらには介護ロボットを活用した介護技術の開発等に寄与した団体等に対して交付します。

平成28年「介護ロボット導入好事例表彰事業」受賞一覧

最優秀賞

事業者部門

社会福祉法人野の花会

5ページ

受賞位	部門	事業者名・自治体名・社名・団体名	ページ
優秀賞	事業者部門	社会福祉法人シルヴァーウィング	7
		オリックス・リビング株式会社	8
		社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム	9
	メーカー部門	パナソニック エイジフリー株式会社	10
		クラリオン株式会社	11
	流通・普及支援部門	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ	12
		社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護実習・普及センター	13
好事例賞	事業者部門	株式会社萌福祉サービス ハイブリッドリハビリスタジオ モエスタα発寒	14
		株式会社たまゆら	15
		医療法人健康会 いちごショートステイ	16
		医療法人つる舞会さくらクリニック 通所リハビリテーション『ユートピア』	17
		医療法人社団緑心会 介護老人保健施設 グリーンアルス伊丹	18
		社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 介護老人保健施設アゼリア	19
		社会福祉法人丸野福祉会	20
	行政部門	岡山市	21
	メーカー部門	株式会社知能システム	22
		株式会社幸和製作所	23
	流通・普及支援部門	一般社団法人日本福祉用具供給協会 中国支部 広島県ブロック	24

受賞案件紹介

「介護ロボット導入好事例表彰事業」として第1回を迎える今回は、平成28年10月6日から11月10日の約1ヵ月間の募集期間中に全国より全95件もの事例の応募がありました。

その中から書類審査及び現地調査を経て、特に優れた事例として優秀賞及び好事例賞に選ばれました全19件を紹介いたしました。

介護ロボット導入・活用のモデルケースとしてこれらの事例を紹介することで、全国の介護ロボットの適切な利用・普及の一助になりましたら幸いです。

平成28年度

介護ロボット導入好事例表彰事業

最優秀賞

事業者部門

社会福祉法人野の花会

介護職のイメージチェンジを目指して ～ HAL® 介護支援用ロボットの導入～

社会福祉法人野の花会



【一人介助でもお互いが安心・安全に】

■ 移乗動作での負担軽減を目指して

開設当初から椅子移乗の徹底や日中おむつゼロの為、トイレでの排泄も積極的に行ってきました。それらを実践するにあたり、スライディングシート、ボード、リフト等の介護機器で負担の少ない介護を実践し、スタッフの腰痛予防や離職率低下に取り組んできました。しかし、排泄動作などどうしても持ち上げる場面がある為、負担軽減を目的に平成 27 年 4 月に 5 台導入しました。

■ 装着したまま日常の業務が可能

腰に電極を貼り、脳からの電気信号を検知し腰への負担を 25～40%軽減できます。重さは 2.9kg と小型で軽量。短時間で装着でき、スイッチを使い分けることで装着したまま、福祉用具等を活用しての体位変換・歩行介助など日常業務が支障なく行なえます。

■ 活用を定着させるまでの過程と導入後の効果

導入当初、ロボットは遠い存在と思ってかあまり関心がなく、約半年間はロボットも棚の上に乗せたままでしたが、勉強会等の実施や業務割表の活用で使用頻度が増えました。

- 1) 勉強会の開催：操作方法に対して全員が必ず参加できるよう 4 回開催しました。「腰痛が軽減できる」「負担軽減となり働きやすい環境になる」「まず活用してみよう」と意欲が出てきました。
- 2) リーダー会議の開催：負担のある場面での活用方法と、全スタッフが活用するための工夫と双方（お客様とスタッフ）が楽な動作を検討しました。
- 3) ケア会議の開催：導入目的や活用方法の伝達を行い意識統一を図り、業務割表を活用し、起床・食事・就寝介助時に限定して毎日の活用を徹底して、不慣れなスタッフに指導が行き届くよう勤務表

を作成しました。

【導入後の効果】

「腰痛も軽減し、負担の少ない介護が学べる職場を選んでよかった」と先進的介護についての意識も高まり、求人面接でも「介護ロボットを導入している施設で働きたい」と選んで貰えるようになりました。今後は、介護ロボットの技能検定を実施し人事考課に反映する予定です。

■ 2人介助から1人介助へ、お互いが安心・安全に

2人介助から1人介助となり、お客様もスタッフもお互いに安心・安全に、介助が出来るようになりました。その効果による余剰人員で歩行訓練等を行う時間が増えました。現在は更に限られた人材をいかに有効活用できるか業務効率を目指し有給取得率の向上にも取り組んでいます。

【介護のイメージチェンジを目指して】

メディア等の取材を通じて、ご家族・スタッフの両親・学校の先生にもロボットに関心を持って貰うきっかけとなり、見学の方も増え介護現場へのイメージチェンジに役立ったと思われます。新卒採用時には介護ロボットを導入していること「見える化」し、新しい介護スタッフ像を理解してもらい、夢と憧れを持って頂けるよう努力しています。一人一人が我こそは時代に先駆けたテクノロジストであるという誇りをもって働けるよう介護職を価値ある「カッコいい」仕事とし、これまでのイメージを払拭できるよう職場環境を整え、理事長、園長はじめ法人全体で取り組んでいます。

■ 忘れてはならない大切なこと

テクノロジー導入の際に、大切なことはそれ以前に「真心」と「やさしい手」を忘れないスタッフの育成が基本であることを理事長・園長・スタッフは決して忘れてはならないと考えています。



【装着したまま歩行介助もトイレ誘導も可能】

最優秀賞表彰式及びプレゼンテーションの様子（介護ロボットフォーラム 2016 内にて開催）



左から テクノエイド協会 大橋理事長、
野の花会 アルテンハイム加世田 リハビリ課 楠元課長 同施設、リハビリ課 新係長



最優秀賞受賞者スピーチ



プレゼンテーション



受賞者の喜びの声

この度は、95 団体の応募のなか、優秀賞として 8 団体に選んで頂いただけでも大変大きな喜びですが、さらに最優秀賞を受賞できたことをスタッフ一同大変嬉しく思います。

介護ロボットの導入は約 2 年前になります。導入以前も持ち上げない介護を実践し働き易い職場環境に努めてきました。しかし、食事時の移乗や日中おむつゼロ達成の為、トイレでの排泄を促すことで持ち上げる場面が増えました。そこで、負担軽減を目的に介護支援用ロボット「HAL」を導入しました。負担軽減のみならず、デザイン性も良く介護現場の「暗い」「きつい」等のイメージが少しでも払拭され「カッコいいスタッフ像」へとイメージチェンジに繋がるのではと思いました。導入当初、全く使用されずに約 6 ヶ月が過ぎました。その後、勉強会を重ねて使用に至るまでの取り組みが、今回評価されたのではと思っています。

今後は、介護ロボットを積極的に活用しつつも自立支援介護を目指し、ご高齢な方の能力がより向上するよう努力したいと思っています。

最後に大切なことは、私達の持つ「真心」と「やさしい手」を忘れずにロボットを使いこなすことだと思います。その上で、お互いに安心・安全な介護を目指します。

お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人野の花会 アルテンハイム加世田
【住 所】 〒 897-0002
鹿児島県南さつま市加世田武田 13877

【担当所属・氏名】

法人本部 理学療法士
楠元 寛之

【電話番号】 0993-52-8715

【E-mail】 nonohana@po4.synapse.ne.jp

介護老人福祉施設の変革（生産性革命）実現のためのロボット 利活用推進

社会福祉法人シルヴァーウィング



【被介護者の外出する喜びと社会参加機会の創出】

■ 介護ロボット導入の背景

当法人は、平成25年度から介護ロボットの導入を始め、現在2事業所20種類61台のロボットを稼働させております。

ご利用者の安全性の確保、機能訓練効果の向上、ADL改善及びQOL向上を図るとともに、介護職員の身体・心理的負担の軽減と介護作業の効率化向上を推進して参りました。

介護ロボットの主たる目的は、雇用環境改善です。

介護職員のフィジカルヘルスケアの観点から、安全かつ効果的に活用することを意識して導入してきた経緯があり、介護現場における「新しい介護の形」の実現を目標としております。

また社会的な介護現場への注目度の高まりがあり、国内外の官庁・団体・マスコミ等による視察・取材を積極的に受け入れ、昨年は55社が来苑され活用状況を公開し、介護ロボットの有用性をご理解頂いています。

■ 介護ロボット導入における効果について

介護現場への介護ロボット導入にあたり、介護職員へは「ロボット活用委員会」を作り、導入から活用への手順を研修するとともに、更に介護現場・介護職員の声をフィードバックしてゆく職員を配置する等の体制強化を図りました。

ご利用者の日常行動範囲を広げるために、歩行訓練等機能訓練支援ロボットの継続活用によりADL改善が図れた事例もあります。また移乗・見守り支援ロボットにより、ベッド⇄車椅子間の転倒・転落事故防止も効果が見込まれています。

多岐にわたる介護作業に際し、介護ロボットの活用により介護職員の身体的負担が軽減されたことや、介護業務へ特化できるこ

とにより、日常業務の省力化・効率化が実績として現れてきております。

■ 今後の方針・展望について

今後、介護ロボットは人口知能等を搭載し新たな開発、及び既存機器の改良が行われていくものと考えます。

私ども介護サービス事業者としては、社会実装上の課題を認識しつつ、人手を基本としながらも、優位性のある業務の選択、人とロボットの最適な組合せの追及、人とロボットの協働による新しい介護の在り方を介護職員全員で認識することで、介護ロボットの導入・活用の方向性を探っていかねばならないと考えております。

また、介護業界に共通する課題として、雇用環境の改善・採用力の強化及び就業後の定着に向けた取り組みの実施についても、介護ロボットの導入を通じて改善できるものと考えております。

これからも、介護ロボットを活かして、高齢者（ご利用者）の方々の人生における継続性（生きがい、社会参加の維持）、自己決定権の尊重（健康、自立した日常生活の維持）、残存能力の拡大（重介護ゼロを目指す）が実現できる社会を目指して、介護サービス現場の変革を図っていきます。



【被介護者の安全・安楽の確保及び介護者の負担軽減・作業効率化の実現】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人シルヴァーウィング

【住 所】 〒104-0041
東京都中央区新富1丁目4番6号

【担当所属・氏名】

特別養護老人ホーム新とみ
佐藤 均

【電話番号】 03-3553-5228

【E-mail】 webmaster@silver-w.jp

「次世代型介護」への取り組み

オリックス・リビング株式会社



【介護現場に導入されているデジタル機器】

入居者の介護・生活支援に必要な情報の共有および統合

＜介護ロボット導入の概要＞

①「インカム」819台 / 27施設を導入

緊急を含む情報発信ならびに的確な指示の受発信の為、マネージャーと介護職が常時携帯

②「タブレットデバイス」679台 / 27施設を導入

シフト表、ケアプランや健康情報等を受信し、サービスを正確に実施するため、介護職が常時携帯

③「Wi-Fi環境」「サーバー」27施設に整備

タブレットデバイスへの情報発信のみならず、実施した介護サービスのデータを伝送しバックヤードで自動出力後、承認受領

＜介護ロボット導入における成果＞

インカムは、緊急事態の情報発信をすることで、食事中に発生する誤嚥や窒息を迅速かつ正確に、応援の指揮統一を図ることができます。平常時は入居者の生活に必要で新たな情報も職員全員が共有化する為、統制がとれた組織運営体制の実現が可能となりました（※インカムを使用して応援要請を発報、救急搬送により一命を取り留めた事例多数）。

タブレットデバイスを活用することで、ケアプランの指示及びサービス完了の確認が容易になり、正確で迅速な業務遂行が実現。館内のWi-Fi環境で手書き帳票業務の大幅削減により、生産性向上に繋がっています（労働時間の大幅削減）。

「持ち上げない介護」の実践（介護者と被介護者双方の心身負担の軽減および安全確保の為に、介護リフトを徹底使用）

＜介護ロボット導入の概要＞

①「床走行型リフト」52台 / 27施設を導入

日常生活における移乗を快適に支援

②「天井走行型リフト」23台 / 18施設へ導入

安全で快適な入浴を支援

③「壁収納型リフト」8台 / 3施設へ導入

介護者の身体負担の軽減と、被介護者の自立意欲を誘発

④「高さ可変式洗面カウンター」495台 / 6施設へ導入

入居者の身体変化に適應、「壁収納型リフト」にも対応

＜介護ロボット導入における成果＞

腰背部の痛みの為に「仕事をすることが辛いと思うことがあった」と回答した介護職員の比率が、導入前に比べ70%低減。

安全性の向上に加え、対面により被介護者の表情や状態を確認しながらコミュニケーションが図れ、リラックスした状態で移乗が可能となりました。また、被介護者にとって移乗の負担が軽減されたことで、移動機会が増え、自立への意欲も高まっています。

居室内の転倒防止と介護サービスの質の向上

＜介護ロボット導入の概要＞

①認知症見守りシステム「Neos + Care」205台 / 16施設へ設置し、運用中

＜介護ロボット導入における成果＞

介護者が携帯するタブレットデバイスに発報後、被介護者の様子をシルエット画像により確認できるため、他の入居者の介護中であっても、落ち着いて介護サービスの優先順位を判断することができます（特に、夜間帯で業務の生産性向上に寄与）。

居室内での転倒回数が減少し、安全確保に大きな成果が出ていることに加え、夜間の検知情報を活用し、今まで見えなかった就寝時の生活パターンを分析することにより「よくする介護」の実践に向けたシステム活用を開始しています。



【介護現場に導入されている様々な機器】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
オリックス・リビング株式会社

【住 所】〒103-0014
東京都港区芝2丁目2番15号

【担当所属・氏名】

事業開発部 事業開発課
日下 生 裕／桜井 智子

【電話番号】03-5439-2215

【E-mail】 yutaka.kusakai.xx@orix.jp／tomoko.sakurai.wu@orix.jp

介護の未来を希望あるものにするための責任

社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム



【リフトを活用して「持ち上げない介護」の実践へ】

■ はじまりは「介護士の腰痛対策」

「腰痛は介護士の職業病である」と言われていた時代がありました。

私たちは、法人の「経営方針」の中で「お客様だけでなく、地域の皆様、ボランティアの皆様、職員を大切にします。」と明示し、介護士の腰痛での離職をなくすために「移乗技術の研修」と「福祉用具の活用」を柱として取り組んできました。

福祉用具の活用のために「福祉用具検討委員会」を設置し、平成25年に、「安全な移乗助動ガイドライン」を発行しました。「持ち上げない介護」を目指すことを表明して、車いす等の基準を定め（肘掛の取り外せないものは使用しない）、施設で使用する車いすを全面的に入れ替えました。

理事長より「リフト導入に関して」という文書で、「すべての職員が、いつまでも健康で元気に働き続けられることを願い、リフトを導入する・・・」と法人の姿勢を全ての職員に伝え、すべての入所施設のフロアに床走行型リフトと移乗移動機を配置し、運用が拡大していきました。

現在は、「持ち上げない介護」が定着するとともに、各種の福祉用具等を活用した負担軽減がはかられ、「経営方針」が具現化されています。

■ 介護支援ロボットの活用と改良への責任

「持ち上げない介護」の定着は、その後の福祉用具の活用や新しい介護技術の習得に対する意識を飛躍的に向上させ、本格的に福祉用具の活用と介護支援ロボットの導入の機運が高まっています。

介護ロボットの定義は様々に解釈されていますが、当法人にお

いては日常生活の場面で介護者や被介護者の負担を軽減できる福祉用具のひとつとして位置づけ活用しています。

平成26年度に、「介護現場で活用できること」「介護現場の希望となること」などを前提として介護支援のためのロボットの導入を検討し、平成27年11月より介護支援ロボット「HAL®」を導入しました。

介護現場での有用性の検証とメーカーへのフィードバックを繰り返し、製品の改善と対象となる職員の負担軽減となるための使用方法や運用方法など、介護ロボットが広く活用されるようになるために貢献してきたと自負しています。

科学技術が発達しても、人材不足を単純に補うための介護ロボットはまだありません。介護は、どこまで行っても「人」が行い、ロボットは、その補助的な役割りであると考えています。

私たちに今問われているのは、前向きにロボットを活用して、私たちにとって有効なロボットに進化させるための「当事者としての責任」を果たすことだと思います。

■ 介護の未来を切り開く覚悟

介護人材の確保が困難な中、介護現場には不安が広がり、介護ロボットへの期待は日に日に高まっています。

希望ある未来のためには、それぞれの現場で多様な人材や道具の活用と新たな価値観の創造により、被介護者の尊厳を守りながら職員の負担を軽減し、働きやすいものに変えていかなければなりません。そこで活用される道具としての介護ロボットを、私たちの現場のニーズにあったものにしていく努力が必要です。

この国の介護を、希望のあるものとするためには、何より当事者として私たちが新しい介護への挑戦を続け、自らの未来を切り開く覚悟が問われています。



【床走行型リフトと介護支援ロボット「HAL®」】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム

【住 所】 〒178-0063
東京都練馬区東大泉 2-11-21

【担当所属・氏名】

大泉特別養護老人ホーム 施設長
中迫 誠

【電話番号】 03-5387-2201

【E-mail】 ooizumi-tokuyou@nerima-swf.jp

「ベッド」と「車いす」が融合 新発想ロボット（移乗介助機器〔非装着型〕）

パナソニック エイジフリー株式会社



【離床アシストベッド リショーン】

介護の中で負担が大きい、 移乗介助の負担を大幅に低減

●製品の特徴

通常は介護ベッドとして利用し、移乗時はベッドの一部が車いすとして分離することで、従来、2～3名かけて行っていた要介護者（寝たきりの要介護者）のベッド→車いす間の移乗介助を、1人ででき、かつ持ち上げない介護を実現しました。

持ち上げない移乗介助の実現により、要介護者、介護者、施設経営者、それぞれに効果をもたらします。

- ①要介護者：移乗時の不安・身体負担・怪我のリスクを大幅に低減でき、離床機会を増加し、参加・活動が活発化できます。
- ②介護者：要介護者の移乗介助が1人で簡単・安全に行え、腰痛につながる身体負担、心理負担を共に80%以上低減できます。
- ③施設経営者
 - a. 移乗介助の省力化／効率化：従来、2～3名かけて行っていた、ベッド→車いす間の移乗介助が1人ででき、創出した時間でより多くの要介護者への対応が可能なので、ケアの質（施設の安全性）向上に貢献します。
 - b. 労働環境改善：導入直後から介護者の負担が大幅改善できます（身体負担、心理負担を共に80%以上低減できます）。
 - c. 顧客満足度向上：要介護者の参加・活動が活発になることで、家族の喜びや、介護者のやりがいが増進します。

●機器導入における実績・成果

2014年6月に発売し限定100台を完売しました。

（導入実績：有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等）

導入した100台について、中長期の現場での利用を通じ、高い有用性を実証しました。

- ①要介護者の離床・参加機会の増加
- ②介護者の身体負担、心理負担低減
- ③簡単・安全介助の実現による業務での長期利用定着

●機器導入前後のサポート体制等

・機器導入時

運搬、設置以外にも、講習会を開催し、基本的な機能・使用方法、安全使用上の注意事項、効果的な使用のためのブレゼン等を実施しています。また、自習学習のために、取り扱いマニュアルの他、DVDを提供しています。

・機器導入後

技術サポート窓口、フリーダイヤル窓口を設け、必要に応じ技術スタッフを現地派遣対応しています。

・アフターサービス

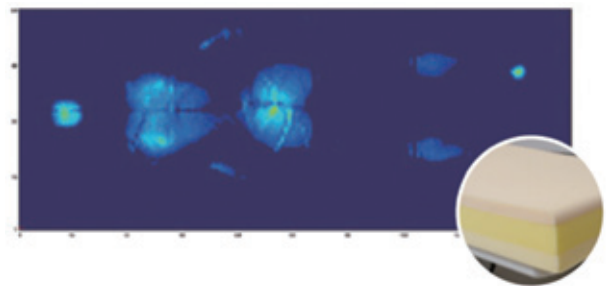
グループ内のサービス会社と提携し、アフターサービスを行います。

■世界初の ISO13482 に基づく認証を取得

2014年2月17日付で、パーソナルケアロボット（生活支援ロボット）の安全性に関する国際規格ISO13482に基づいて、第三者機関にて安全性を評価し、認証を取得しました。

■今後の展望（後継機種の発売）

10年以上の介護ロボットの開発実績、及びリショーンの100台の納入実績とヒアリングをもとに、普及価格へチャレンジ、更なる商品魅力の向上（利便性、安全性、デザイン性等）を行ったリショーン Plus を、2017年1月20日に発売しました。また2017年2月1日より順次、介護が必要なご家庭でも利用いただけるようにレンタルを開始します。



【マットレスの体圧分散データ（マットレス分割部は、体圧分散性を高めるよう、ソフトで滑らかな曲面構造を採用しています）】

■お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】

パナソニック エイジフリー株式会社 ケアプロダクツ事業部

【住 所】 〒571-8686

大阪府門真市大字門真 1048

【担当所属・氏名】

営業企画部

小森 崇稔

【電話番号】 06-6908-8141

【ホームページ】 <https://sumai.panasonic.jp/agefree/>

※上記ホームページよりお問合せ下さい。

お薬管理は服薬ロボにおまかせ

クラリオン株式会社



【服薬支援ロボ KR-1000A】

製品 HP : <http://www.clarion.com/jp/ja/products-business/care/KR-1000A>

製品の特徴

本ロボット（服薬支援ロボ KR-1000A）は、事前に薬剤をピルケース、カセットに格納、時間設定をしておくことで、音声・画面表示による服薬案内とともに、本体からピルケースを排出する機能を持つ、服薬管理支援を目的としたロボットです。

- ・1日最大4種類の薬剤を収納可能です。
- ・設定時間に従って音声で案内し、取り出しボタンを押すことによりピルケース（薬剤）を取り出すため、服薬精度が上がります。
- ・人感センサーにより、機器近傍に人がいることを検出し、服薬時間であれば音声ガイダンスにて服薬を促します。
- ・ピルケースをカセットに収納する際や、カセットを本体に収納する際に、誤装着を防止する機構を備えています。
- ・薬剤の取り出し履歴を記憶し、USBメモリへ書き出し可能です。

機器導入における実績・成果

【高齢者の自立支援に寄与】

高齢者は1日に飲む薬の種類や量が増える傾向にあり、飲み過ぎによる体調不良や飲み忘れにより残ってしまう薬が服薬管理の大きな課題となっています。当該製品の使用により、直接的に残薬を減らすとともに、的確な服薬効果を得られることで、高齢者の服薬の安全と安心を守り、自立支援に寄与します。

【ご家族等、在宅介護者の負担を軽減】

ご家族等、在宅介護を行っている介護者の約4割が、要介護者に薬をきちんと飲ませることに負担を感じているという結果が出ています。当該製品を利用することで、在宅での服薬助助の負担

軽減効果が期待できます。

【施設介護職員の人材不足を補足】

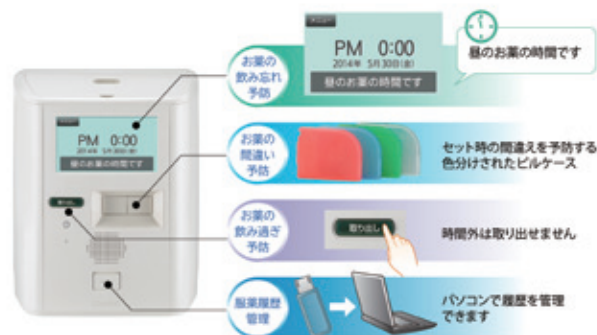
サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、グループホームなどの介護施設に当該製品を導入することで、利用者の服薬管理を行う際の介護職員の負担を軽減するため、慢性的な人材不足を補うことができます。

【実際の介護現場からの声】

- ・「毎日30分かけてやっていた薬のセッティングが週1回1時間半で良くなり、シフト的にも楽になった。」（施設スタッフ様）
- ・「毎朝復唱しながら2〜3回チェックする作業や毎回服薬時間を気にしながらの介護、服薬時間を間違えるストレスが軽減され、作業負担が軽減された。」（施設スタッフ様）
- ・「履歴がはっきり分かり、カレンダーの虫食い状態による日付の不明瞭な点が改善される。」（薬剤師様）
- ・「毎日電話で服薬を促している方にもこれを使って頂きたい。」（ケアマネジャー様、訪問看護師様）

今後の方針・展望

訪問介護や訪問入浴、訪問看護、デイサービスなどの在宅介護サービスを全国490カ所に展開している、介護サービス事業大手のセントケア・ホールディング株式会社とクラリオン株式会社で、合併会社「ケアボット株式会社」を平成26年に設立し、現場の状況を把握しながら製品開発へのフィードバックを行っております。また、株式会社日立システムズと、地域包括ケアを推進する事業の実証実験としてクラウドサービスも推進しており、市場からのフィードバックを得ることで、機器改良への活動を進めております。今後も介護現場ニーズに合った製品へ改良を続けてまいります。



【服薬支援ロボ KR-1000A の特徴】

お問い合わせ先

【事業者名/自治体名/社名/団体名】
クラリオン株式会社

【住 所】 〒330-0081
埼玉県さいたま市中央区新都心 7-2

【担当所属・氏名】

マーケティング&セールス本部 CV 営業部
林田 敏文

【電話番号】 048-718-5095

【E-mail】 Toshifumi_Hayashida@clarion.co.jp

介護実習・普及センターにおける介護ロボット普及の取り組み

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ



【なごや福祉用具プラザ 常設展示場 介護ロボットコーナー】

流通・普及活動の概要

- 取扱い介護ロボット品目：ロボット介護機器開発・導入促進事業の重点分野を中心に、移乗、移動、排泄、見守り、認知症セラピー、機能訓練、服薬管理、掃除、転倒防止に関する機器 21 点。
- 導入コンサルタントの数：移乗、移動、見守り分野に関する機器を延べ 14 施設に 61 点。
- 導入コンサルできる介護サービスの分野：移乗、移動、見守り分野の介護ロボット。

実績

平成 25 年より、障害者自立支援施設、高齢者入所施設、名古屋市総合リハビリテーションセンター、開発企業と一体となって、介護ロボットの導入支援やモニター事業を行っています。一般向けには、国際福祉健康産業展ウエルフェアを始め、認知症講演会、介護フェアなど 22 回の展示会を実施し、地域の家族向け体験会を 313 回開催しました。弊所は介護実習・普及センター機能として福祉用具の展示場を有し、年間約 4 万 5,000 人の来館者があります。1,300 点の福祉用具と併せて、介護ロボットを身近に感じられるよう常設展示をしています。また、介護が必要とされる方以外にも、潜在的ユーザーや子供たちへ、早期から介護ロボットに触れられる機会を設け、情報提供しています。専門職には、体験会 42 回、試用評価 14 回（機器数 61 点）、介護ロボット導入・活用・普及ワークショップを含む意見交換会 15 回を実施し、利活用事例の積上げとワークショップデザインの整理を行いました。これらの取り組みは、介護ロボットの普及を促進する新たな枠組みとして作成した「5 段階モデル」の中に位置づけられてい

ます。多職種が連携し機器の知識習得から利活用方法の創出までを段階的にかつ一体的に行うことで、介護ロボットの普及・活用および人材育成に寄与する事を目指しています。新規参入企業や支援団体へは、開発相談や専門家派遣を 117 件（61 社）行いました。また、他の介護実習・普及センターとの意見交換、企業、大学の視察等、広く情報収集をしています。整理された情報は、学会、研修会、広報誌等を通して、関係機関へ広く発信しています。

今後の方針・展望

今まで蓄積した介護ロボット導入のノウハウや普及の取り組みについて、広報誌や Web 媒体を通して発信し、情報の透明化を図ります。導入支援では、機器の効果と生活の変化を ICF 等で視覚的に整理し、多職種間で共有することでよりよいマッチングを図ります。介護現場と開発企業が協力して包括的に介護ロボットの普及・活用を考えられるよう支援します。既存の介護実習・普及センター機能に介護ロボット普及支援機能を付加し、引き続き邁進してまいります。

（ロボット関連情報：名古屋市総合リハビリテーション事業団ホームページ＞なごや福祉用具プラザ＞福祉用具に関する情報収集・提供＞広報誌「暮らしほっとワーク」

<http://www.nagoya-rehab.or.jp/plaza/summary/intelligence/index.html>



【多職種連携ワークショップの様子】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ
【住 所】 〒466-0015
愛知県名古屋市昭和区御器所通 3 丁目 12-1
御器所ステーションビル 3F

【担当所属・氏名】

なごや福祉用具プラザ
高木 洋一

【電話番号】 052-851-0051

【E-mail】 n-plaza@nagoya-rehab.or.jp

利用者本位の介護ロボット普及を目指して

社会福祉法人青森県社会福祉協議会 青森県介護実習・普及センター



【多様な介護ロボットの体験型展示・研修会は毎年大盛況】

高齡社会を支える取組

青森県社会福祉協議会 介護実習・普及センターは「高齢社会は県民全体で支える」という基本理念の下、県民への介護普及と優良な福祉機器を普及するための展示・体験・相談・研修等種々の事業を推進しています。

介護ロボットの普及支援は、平成25年度、テクノエイド協会のモデル事業に取り組んだのがきっかけでした。

青森県の高齢化率は30.1%で全国12位の高さです。要介護認定率は平成26年10月末現在で19.7%（全国平均18.4%）、要介護認定者の介護サービス利用割合も90.2%（全国平均84.6%）といずれも高く、介護環境の整備は本県において最重要事項です。

具体的な普及事業としては毎年複数回の展示体験会や研修会、試用等を実施している他、経済産業省のロボット介護推進プロジェクトにも参画し、見守りロボットの導入を行いました。平成27年度からは介護ロボット導入支援事業（地域医療介護総合確保基金）も実施し、プレ使用から本格導入に結び付けています。導入実績等は表1のとおりです。

青森県介護実習・普及センターの支援プロセス

支援プロセスの一例をあげると次のとおりです。

①事業所から導入の相談⇒②事業所の現状と課題を把握⇒③機器の調整とデモンストレーションの実施⇒④試用⇒⑤導入計画・効果測定方法等のコンサルテーション⇒⑥導入・フォローアップ

また、当センターの支援には4つの特徴があります。

①可能な限り導入研修を行っていること

②導入計画、効果測定等を事業所と協働して行い、意見交換等を実施していること

③看護師・理学療法士・作業療法士等のワーキングチームを設置し普及支援の手法を模索していること

④大規模な展示体験会の他、町村部でのイベントや介護教室等で介護ロボットを紹介していること

分野	ロボット	主な導入実績
移乗	マッスルスーツ(レンタル)	4事業所に合計4台
移動	ロボットアシストウォーカーRT.2	4事業所に合計5台
	リトルキーパス	1事業所に合計1台
排泄	ラップボン・エール	1事業所に合計2台
見守り	ケアロボ	6事業所に合計26台
	ガードアイセンサー	2事業所に合計6台

＜その他取扱品目＞ロボットスーツHAL、スマートスーツ、ロボヘルパーサスケ、ロボットアシストウォーカーRT.1、リショネ、尿吸引ロボヒューマニー、自動排泄処理装置マインレット、水洗ポータブルトイレ、ベッド見守りシステムアウルサイト、シルエイト見守りセンサ、ネオスケア、ケアボット、メンタルコミットロボパロ、うなずきかばちゃん、見守りケアシステムM-1

【表1 導入実績と取扱品目（H25年度～H28年度）】

尊厳ある暮らしの支援を第一義に

介護ロボットは介護人材不足の決定打として期待されています。同時に利用者の尊厳ある暮らしの支援を第一義とすべきなの言うまでもありません。

今後も高齢化が進む青森県において、介護ロボットが超高齢社会を真に支えられるよう、利用者本位の普及を支援していきます。



【介護ロボット導入前のデモンストレーション風景】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人青森県社会福祉協議会

【住 所】 〒030-0822
青森県青森市中央3丁目20-30

【担当所属・氏名】

青森県介護実習・普及センター所長
青田 俊枝

【電話番号】 017-774-3234

【E-mail】 toshie.aota@aosyakyo.or.jp

デイサービスを HAL® スタジオとして利用

株式会社萌福祉サービス ハイブリッドリハビリスタジオ モエスタα発寒



【モエスタα発寒 全景】

■ デイサービス稼働外を HAL® スタジオとして運営

萌福祉サービスは北海道内 11 市町村に 49 の事業所を展開しています。モエスタα発寒は 2014 年 9 月 15 日に札幌市西区発寒に開設しました。人の力と機器の力の融合（ハイブリッド）により利用者様の成果を目指す新しい形のデイサービスです。

平日は短時間 2 単位（午前、午後）デイサービスとして身体機能の維持向上をはかるため、専任理学療法士を中心に利用者様お一人おひとりに合わせた運動プログラムを作成し実施しています。

そしてデイサービスの提供時間外では、札幌市内事業所の理学療法士がチームを組み、自立動作支援ロボット「HAL®」を使ったハイブリッドリハビリスタジオとして営業しています。

北海道で唯一在宅の方が HAL® を利用出来るリハビリスタジオとして、これまで多くの方がご利用され成果を出しています。

■ HAL® スタジオの概要

モエスタα発寒ではデイサービス稼働の無い平日の 18 時以降、そして土曜日の 9:00～17:00 に HAL® スタジオを運営しています。最新機器が揃っているデイサービスを稼働の無い時間に HAL® スタジオとして使用することで、有効にデイサービスの場所を活用することが出来ています。

HAL® スタジオでは、HAL® を使用する前に理学療法士が個別理学療法を実施しています。この個別理学療法により筋緊張緩和や姿勢動作改善をはかり、HAL® の使用効果を最大限に高めるように工夫しています。

利用料金は、初回が 1,000 円（45 分）、2 回目以降が 6,000 円（75 分）と低料金を実現しています。

この低料金の実現については、当社として一人でも多くの方に HAL® リハビリを通じて機能回復をはかってほしいという思いがあります。

運営面においては、デイサービスの稼働時間外にその場所を利用することで、単独の HAL® スタジオを持たずに運営が出来るため運営経費を大幅に削減出来ていることで低料金を実現しています。

■ デイサービスの「新たな形」として

立ち続けたい、歩き続けたい方が通うデイサービス。

もう一度立ちたい、歩きたい方が通う HAL® スタジオ。

モエスタα発寒は一つの事業所にこの 2 つの体制を整えることで、より多くの地域高齢者の方々に、リハビリを通じて ADL（日常生活動作）向上という成果を出し続けています。

デイサービスは近年開設数が著しく、事業所数は飽和状態にあります。この数多くあるデイサービスが今後有効に地域に活用されなければいけません。モエスタα発寒は、デイサービスの運営形態の「新たな形」として、地域高齢者の方々にリハビリを通じて貢献を続けていきます。



【複数のモニターで生体電位や動作を確認出来ます】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】

株式会社萌福祉サービス
ハイブリッドリハビリスタジオ モエスタα発寒

【住 所】 〒063-0826 札幌市西区発寒 6 条 11 丁目 1-50
エクセルシオール西さっぽろ 1F

【担当所属・氏名】

佐藤 善則

【電話番号】 011-668-1515

【E-mail】 mah@moe-fukushi.com

Neos + Care（ネオスケア）次世代予測型見守りシステム

株式会社たまゆら



【センサーユニット→ Wi-Fi（有線 Lan）】

■ 介護ロボット導入の概要について

介護現場においては、居室の利用者全員を常時見守ると言うことは、職員達にとっては大変な重荷になり、事故がおきた時には後悔と責任感で、職場を離れる者もいます。

また、事故の原因・再発防止の検討会においても、目の届かないところでの事故が大半であり、多くの場合、直接の原因・起因が分からないため、追求がうやむやになってしまうことが多く、事故の減少につながらないと言うのが現実でした。

そこで、ネオスケア（センサーユニット）を、ショートステイ（34床）と有料老人ホーム（17床）の2棟全ての居室で使うことができるようにセンサーユニットの取り付け台を全居室に設置し、サーバーPCはショートステイのヘルパーステーションで一元管理することにしました。

但し、センサーユニットは1台の単価が高額なため、ショートステイに7台、老人ホームに3台を配置し、利用者様の中でも見守りの必要度の高い部屋に設置することになりました。

6台のタブレット（モバイル端末）には、センサーユニットが異常を感知すると、Wi-Fi ルーターを通して通知が送られ、送られた画像を同時に確認することができます。

タブレットを持っている職員は画面を確認し、一番近くにいる職員が居室に駆けつけます。

■ 介護ロボット導入における成果について

以前は、フットセンサーあるいは呼び出しコールに対応していましたが、その都度部屋まで駆けつけねばならず、特に夜勤者は神経を消耗していました。

夜間定期巡回以外の時間帯も常に注意を払っていなければなりませんでした。現在は落ち着いて日誌等の記録も作成できるようになりました。

またサーバーPCには一定期間データが保存されるので、事故・ヒヤリハットの報告書、検討会には貴重な記録として採用できた必要な部分はUSBに残すなどしておきます。

保存されたデータを分析し、事故原因の追究をし、改善の方法を職員達が真剣に考えるようになり、このシステムを採用する前に比べると30%ほど事故ヒヤリ件数が減少しています。

■ 介護ロボット導入によるサービスの改善
及び今後の展望

このシステムの開始と同時に、廊下・食堂に赤外線監視カメラを設置し、居室・廊下・食堂を24時間一元的に管理ができるようにしました。

事故報告書も以前はただ作ればよい、書類として整っていれば良いという考え方でしたが、現在は事故原因が的確に把握できるため、誰が読んでも納得のできる記録となりました。

また、記録のバックデータがサーバーPCもしくはUSBなどに保管されているため、蓄積されたデータにより、ADL（日常生活動作）のチェックができるようになることも期待できます。

ケアマネージャー様、利用者のご家族様からも信頼感を持っていただけるようになり、利用者の増加にもつながるものと期待しています。

【Wi-Fi ← サーバーPC（有線 Lan）
→ タブレット（無線 Lan）】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
株式会社 たまゆら

【住 所】 〒395-0151
長野県飯田市北方 2688-2

【担当所属・氏名】
松村 統一

【電話番号】 0265-28-2885

【E-mail】 m-1919@amber.plala.or.jp

「見えない不安」から「見える安心」へ

医療法人健康会 いちごショートステイ



【いちごショートステイが入っているいちご在宅支援センター】

■ 介護ロボット導入の概要

平成 26 年 4 月 厚生労働省の案内にて「ロボット介護推進プロジェクト」を知りました。このプロジェクトは介護ロボットの導入だけでなく製造業者や仲介業者とチームになって検証を行えることから参加を決めました。介護ロボットの選定を行う際に現場の介護職員から一番多く上がったのが、“夜間の利用者の安全を確保すること”でした。当事業所は個室 18 床のショートステイで夜間は介護職員 1 名体制です。そのため利用者の対応をしている間に、別の利用者が転倒していないか、コールが複数鳴った時に優先順位をどのように決めればいいのか等の不安が常にありました。こうした「見えない不安」を介護ロボットで軽減したいと思い、見守り支援のカテゴリよりシルエット見守りセンサを選定しました。シルエット見守りセンサは離れていても部屋の様子がタブレット端末にて手元で確認ができ、設定すればベッドからの起き上がりやはみ出しをアラームで知らせてくれます。また、操作が単純であり、シルエット画像なので利用者のプライバシーを守ることができます。以上の理由より、平成 26 年 10 月にシルエット見守りセンサ 10 台、タブレット端末 3 台を導入しました。

■ プロジェクト開始

今回のプロジェクトの一番のメリットは製造業者の方が操作方法を事業所で直接、介護職員に説明してくれることです。特にシルエット見守りセンサはベッド上に見守りエリアを設定し、ベッドからはみ出しや起き上がりを知らせてくれるため、エリア設定の方法や、状況に合わせた設定の確認が出来ました。それにより、介護職員は設定方法や修正を正確に行うことができ、状況に

合わせて使用できるようになりました。

まずは転倒や転落のリスクがある方や認知症にて部屋での様子を把握したい利用者に使用しました。離れていても手元のタブレット端末で確認することができ、職員の「見えない不安」から「見える安心」へ変わってきたことが導入後のアンケートで実感できました。また、利用者が部屋で何をして過ごしているのか確認できることで、生活パターンを把握し在宅での対応を家族へ助言することもできました。

■ プロジェクト終了後

プロジェクトが終了し、現在もシルエット見守りセンサを活用しています。10 台可動し、見守りエリアを設定し作動させているのは 2～4 台です。センサを作動させているときは転倒、転落を未然に防ぐことが出来ているのでインシデントは発生していません。センサを作動させる必要がある状況や利用者を判断できるようになったこともインシデントが発生していない要因と思われます。そのため、異動してきた職員や新人職員には操作方法を早い段階で指導するようにしています。そして一番の変化は夜間の見守りだけでなく、ベッド周辺で安全に移乗動作や排泄動作を行っているかの確認など、自立支援のためにも活用している事です。それにより能力にあった環境を整えることができるため、過剰な介護を減らし、家族の介護負担の軽減に繋がっています。

夜間「見えない不安」の中で業務をしていた介護職員が介護ロボットの導入により「見える安心」に変わり、利用者の安全確保だけでなく、利用者、家族の在宅生活に活用できていることは大きな成果だと感じています。



【シルエット見守りセンサ使用風景】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
医療法人健康会 いちごショートステイ
【住 所】 〒 910-0855
福井県福井市西方 1 丁目 2-11

【担当所属・氏名】

管理者
増永 晴美

【電話番号】 0776-23-1505

【E-mail】 ichigo-ss@kenkoukai.or.jp

歩行ロボットでプラトリーハビリテーションを面白くする

医療法人つる舞会さくらクリニック 通所リハビリテーション『ユートピア』



【装着・設定は2分程度 慣れると速くできます】

歩行ロボット（HWA）との出会い

当施設では、本田技研工業株式会社の歩行アシスト（以下HWA）を2013年11月から導入使用しています。通所リハビリの利用者様、なかでも脳卒中片マヒの慢性期リハビリテーションは変化に乏しくなりがちです。サービス提供者として、いつも目新しいものを探していました。そんな時、2013年9月に、横浜の市民講座でHWA説明会に偶然出会いました。当初は、日本全国で50セット限定の有償モニターでした。ぜひ利用者様に使って頂きたいと考え、本田技研工業さんの電話番号もわからないところから始めて、メールをやりとりし、何度もアタックしモニターにこぎつけました。現在は、商品化されたHWAを1台レンタルし、1日20人前後の利用者様に使用しています。

HWAは開発時点では脳梗塞後遺症の方を想定して作られました。現在は、歩行能力が低下した方や、整形外科の手術後などさまざまな疾患に対しても効果があるか、エビデンスを構築すべくデータの収集を継続しています。現場の実感としては、歩行リズムを矯正する効果もあることから、パーキンソン病や小脳疾患の歩行改善にも可能性が見い出せると思います。

歩行改善してデータになり、グラフ化・見える化できる

当施設では、従来の運動療法、物理療法、徒手による手技療法に加えてHWAによる歩行訓練、ステップ訓練を行っています。HWA使用では、スタッフの手では困難な運動療法アプローチが可能で、改善した効率的な歩行が維持されます。また、歩行が見える化されます。歩数、歩行時間だけでなく、股関節可動域（屈曲・

伸展）、左右差を角度やグラフをタブレットですぐ確認できます。過去のデータとの比較も容易で、利用者様のやる気を上げることができています。1台の導入で、複数の利用者様に対して、よりよい歩容の改善につなげています。

一方で、HWAが利用者様に受け入れられないこともあります。歩行が矯正される為、従来の歩き方ができず不安に感じ、使用を中断することもあります。しかし、HWAの特性として、使用しない間も歩容改善が進むので、再使用して、効率よい歩行を習得される方もいます。その為にはHWAが適用なのか、最適な設定なのか、歩行を正確に観察し、見極めるスタッフの実力が問われます。HWA導入を嫌がられても、時機を見ながら再度、再三おすすめてできる観察眼や粘り強さ、提案力、機器を使う手間を、面倒がらないスタッフの姿勢が大切です。介護ロボットが介在しても、利用者様とスタッフとの基本的な信頼関係が必要です。

介護の現場から、日本発の未来産業創出！

HWA導入等、サービスの質は当施設の評判を高め、人気施設になっています。現在は、HWAの商品化や、効果的な使用法のマニュアル作成に向けて、産学官共同研究に参画しています。他施設の医療介護スタッフと研鑽を積み、最先端の研究者、技術開発者ともやりとりし、非常に有用な異業種交流をしています。有名なアザラシロボット「パロ」は、使用マニュアルこそ世界的に高価値であるということを踏まえ、スタッフはじめ利用者様たちも、種々のデータが日本の未来産業や知的財産を創生しているという自負を持っています。日々のリハビリが社会貢献である誇りを持つ付加価値は、他には類を見ない実績だと思います。



【どんどん歩いて あちこち行くぞ 俺についてきな！】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
医療法人つる舞会さくらクリニック

【住 所】 〒374-0077
群馬県館林市木戸町596-1

【担当所属・氏名】

通所リハビリテーション『ユートピア』
須永 光徳 野口 亜希子 松浪 真吾 柿沼 貴子 半田 開

【電話番号】 0276-72-3890

【E-mail】 sp5b2vy9@view.ocn.ne.jp

ロボットのある日常介護の実現

医療法人社団 緑心会 介護老人保健施設 グリーンアルス伊丹



【介護ロボットベッドリショネ】

介護ロボット導入の概要

当法人では、毎年の介護フェア等で、介護業界全体の方向性を見極めるように努めています。人材の定着・人材の確保・処遇の改善は、現場に於いて極めて重要な問題であり、この問題をどのように捉え、解決していくかが今後の業界の最重要ポイントであると考えています。この3つの課題を少しでも緩和させる方法の一つに、介護ロボットの導入を検討致しました。積極的な取り組みは、スタッフ全員の成長しいては法人の成長に繋がり、結果、業界全体の発展にも寄与するものと考えております。先進事業の導入は、今後グローバルに展開するであろう介護分野に必要不可欠であり、当法人がその担い手の一助になればと願っております。現在、ベッドが車椅子に変形する介護ロボットベッドリショネを2年前に1台、癒しロボットパロを1年前に2台導入しており、年度内には、シルエット見守りセンサー2台の導入を予定しています。

介護ロボット導入における成果について

介護ロボットベッドリショネ導入に際して、スタッフに対し事前の講習会を実施、導入の目的、動作説明及び導入後に必要な記録ファイルの作成等の説明を行いました。又、導入日前日に搬入をし、業者にスタッフへの直接動作指導を依頼した結果、実際の使用までに、スタッフへの動作レクチャー期間が必要となり、搬入後より1～2週間の期間を設けて担当部署のスタッフ全員が動作確認を行うノウハウ共有会を実施し、スタッフの動作確認に漏れが無いように対応、その後に利用者様への使用を開始致しました。講習会及びノウハウ共有会は、全部で8回実施し、導入後の利用者様の状況等につきましても逐次スタッフから情報を

確認し、業者並びにご家族様へご報告をさせて頂きました。癒しロボットパロにつきましても、導入目的を同じく全スタッフに行い、導入前に業者へデモンストレーションを依頼、設置部署のスタッフに対応者（利用者様）の検討を諮り、導入後に即対応できるように準備致しました。介護ロボットベッドリショネの使用対象者は、導入がなければ、移乗の際にスタッフが安全の為に3人から4人の対応が必要な方に対して、導入したことでスタッフ1人での対応が可能となり、対応人数削減による介助者側の負担軽減、移乗動作がないことによる腰痛予防に大いに役立っており、利用者様のリスク（移乗時の負担軽減・皮下出血・皮膚ハクリ等の外傷リスク）軽減にも効果がみられました。作業効率では、導入時のベッドから車椅子への変形対応時間も現在では、短縮されています。（導入当初、変形に要した時間2分30秒～40秒が、1分程度に短縮）時間の短縮により、他の利用者様への対応が可能となっています。一方で、ロボットが精密機械である為、故障にスタッフが対応しなければなりません。具体的には、室温・湿度・取扱方法等によりセンサーが反応し停止するケースが見られ、何度か修正操作が必要になることがありました。現在では、業者からの修正方法も周知され以前と比べ、修正操作によるストレスはありません。

今後の展望

日本が、課題を多く抱えた先進国として、いかに乗り切ることができるか課題解決に向け、新たな取り組みが必要であるということは言うまでもありません。介護の分野に於いても、ロボットのある日常介護が普通に存在することができれば、それを核として間違いなく世界をリードしていけるものと確信しています。そのためには、ロボットを誰もが使いこなせることが重要であり、そのノウハウの蓄積こそが成長の鍵であると考えています。



【癒しロボットパロ】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
医療法人社団 緑心会
介護老人保健施設 グリーンアルス伊丹
【住 所】 〒664-0028
兵庫県伊丹市西野3丁目240番地

【担当所属・氏名】

事務長 塩田 真一郎
統括 金崎 政信

【電話番号】 072-779-6600

【E-mail】 shiota@ryokushinkai.jp / kanazaki@ryokushinkai.jp

利用者生活環境向上と介護負担軽減！

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 介護老人保健施設アゼリア



【個室ベッド上に設置されたシルエット見守りセンサ】

導入までの経緯

介護ロボット導入は平成26年から各種実証実験を通じて、職員のモチベーションアップを目的に開始しました。平成27年度の実証実験の要綱の「キング通信工業株式会社社製シルエット見守りセンサ（以下、見守りセンサ）」を見て、一目で利用者の利用生活環境向上と転倒転落予防、介護職員の負担軽減につながると感じ応募をしました。実証実験ではいろいろな困難がありましたが、メーカー担当者と二人三脚で進め効果を実感することができました。製品開発段階から利用者や介護者の視点をしっかりと検討していたこともわかり、本格導入決定に時間を要することはありませんでした。導入時に神奈川県補助金制度が始まったこともあり、公的な支援を受けることも導入のハードルを下げることになりました。今回は見守りセンサを5台と小型タブレット端末を4台導入し、実務で使用するようになりました。

シルエット見守りセンサの特徴について

見守りセンサはベッド上の動作を視認できることが最大の利点です。また、赤外線センサーを使用しているので顔が見えず個人特定ができないことや昼夜問わず同じ画質で見ることができます。ベッドから手や足が出た時、起き上がった時、座った時に小型タブレット端末が知らせてくれるため、利用者の動きを早期にキャッチでき職員が対応すべきか否かの判断を行うことができます。視認の利用者状況確認と手元の操作ができることで、無駄な訪室を防ぐことができます。また、見守りセンサ反応時には最大15秒の動画録画機能があるので、もし転倒してしまった場合にはその状況を評価することができます。

シルエット見守りセンサの導入効果について

使用する利用者については見守りセンサの特徴を考え、従来の離床センサーにて夜間頻回にアラームが鳴る方、または動きが早く転倒の危険がある方に設置しています。設置時には見守りセンサの説明を本人または家族に行い、了承を得た上で使用します。

第27回全国介護老人保健施設大会大阪でも発表しましたが、夜間職員の訪室回数については設置前平均8.5回だったものが設置後は1名が0.5回、もう1名が2回と大きく訪室回数を減らすことができました。その結果、他の利用者の見守り強化や記録等の時間を作ることができています。また、職員の負担感については軽減したという結果が出ています。しかし、導入時は機器の操作方法を覚えることや設定がうまくいかず作動しない等の負担をかけることもありました。負担についてはメーカーにご協力いただき、使用方法の講習会を複数回受けることができるようにすることや改善点を協議することで、負担を最小限にする努力をしました。

今後は録画機能を利用し、転倒予防だけではなく自立支援に向けた評価としても使用できるようになると思っています。また、職員は業務改善等の新しいことにチャレンジすることへの抵抗感は少なくなり、臨機応変に対応する力がつきました。



【ケアステーションにて小型タブレット端末で利用者状況を確認】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
介護老人保健施設アゼリア
【住 所】 〒243-0433
神奈川県海老名市河原口1357-1

【担当所属・氏名】

管理部
相川 浩一

【電話番号】 046-231-1311

【E-mail】 azalea@jin-ai.or.jp

aams がある事による安心と負担軽減

社会福祉法人丸野福祉会



【居室ベッドに本体を設置】

■ aams とは？

入居者の生活を24時間支える中で、ベッドで休まれている入居者の容態の変化やベッドからの転落など、職員は常に入居者の状態が心配になります。そこで、この人感センサー搭載の aams. 介護を導入すると、職員は、タブレット端末上で複数の入居者を同時に臥床中なのか離床しているのかはもちろん、脈拍、呼吸、体動がリアルタイムでひと目に分かり、心身ともに安心して他のケアに当たることができます。センサーの設置に関してもベッドのマットレスの下に薄いシートを敷くだけであり、非接触性のため不快感を与えず、安心してベッドで休息をとる事ができます。設置に関してはナースコールの端子を繋ぎ、電力をコンセントから得るだけで完了。後は施設内に事前に設置したサーバーに自動でリンクし、同期等もなくシームレスに設置可能です。

導入台数は20台で、特別養護老人ホーム50床、短期入所生活介護10床の入居者から必要に応じて使用しています。

■ 生体センサー導入による安心と負担軽減

従来の離床センサーでは誤報や失報が頻発していましたが、生体センサーの導入で解消する事ができました。また危険行為の分類が可能で、起き上がった時、端座位になった時、立ち上がった時等の個別での通報が可能となっているため、転倒、滑落等の事故を未然に防ぐ事が可能となります。体動を感知できることから、臥床時の体位交換の必要性の判断基準の一つにもなります。看取り時には、リアルタイムで呼吸、心拍を把握できるため、迅速な対応が可能となります。誤作動が少ないため、見守り支援の回数、時間を減らす事が可能となりました。また転倒リスクが高い入居

者の転倒による事故等を未然に防げる事から、ストレス緩和にも繋がります。この事より、介護従事者は昼夜問わず安心して業務につく事ができ、この安心感が入居者にも伝わり双方に良い相乗効果を生まれます。時間の有効活用もでき、より質の高い介護提供可能となります。

■ 今後の活用と課題

生体センサー aams を導入する事により、介護従事者の負担軽減や入居者の転倒等による事故を未然に防ぐ事ができるようになりました。aams はセンサーからの複数の情報をもとに睡眠状態を把握する事ができ、入居者が夜間帯どれだけ睡眠できているのか？また何時頃に入眠し、何時頃に覚醒されたか？を知る事が可能です。そこから睡眠導入剤等の効果や、日中帯の活動との関連性なども分析可能となります。記録も1ヶ月保存され、デジタル化可能なため、その集積されたデータをもとに今現在のケアのあり方を再検討する事も可能です。対象者の生活のリズムを知る事で、何時頃に覚醒されるのか判れば、朝起きる時間も個別に対応する事が可能となり、入居者様も気持ちの良い一日をスタートする事ができます。また臥床中も体動が多い時間帯は、排尿や排便の可能性を考える事もでき、統計をもとに事前にトイレ誘導が可能となります。

この様に aams の人感センサーは、従来の離床センサーとは異なり、多くの生体情報を得る事ができます。今後は転倒予防以外にも幅広い使用を視野にいれ、睡眠状況、体動の有無等の情報から入居者様の生活リズムを分析し、より個性や質の高いケアの提供を目指していきたいと考えております。



【aams の情報を ipad 上で確認】

■ お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
社会福祉法人丸野福祉会

【住 所】 〒885-1105
宮崎県都城市丸谷町 4670 番地

【担当所属・氏名】
機能訓練指導員
塩川 恵介

【電話番号】 0986-45-3351

【E-mail】 hohoemi2002@beach.ocn.ne.jp

介護保険対象外の介護機器を、介護保険と同じ1割負担で 市民へ貸与！

岡山市



【おだやかタイム（コントロールBOXとセンサーマット）】

総合特区最先端介護機器貸与モデル事業

高齢者が、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていけるよう、本市では介護保険の対象になっていない最先端介護機器も、市が公募により選定したものについては、介護保険と同じ1割の利用料で貸与しています。これが「総合特区最先端介護機器貸与モデル事業」です。

対象者は、本市の介護保険被保険者の方で、在宅で生活されている方です（機器によって要介護度の要件があります）。現在、移動支援機器やコミュニケーションロボット等、6分野11機器を貸し出しており、平成26年2月の事業開始から、累計で約450名の方が利用されています。

見守り支援機器の役割・効果

この「総合特区最先端介護機器貸与モデル事業」の対象の1つに「見守り支援」という分野で「おだやかタイム」があります。

この機器は、要介護者の状態（心拍、呼吸、睡眠、離床等）の情報をスマートフォン等の通信端末で確認することができ、また異常を感知した際には、事前に登録した連絡先にメールで連絡が行きます。これらの機能により、以下のようなケースに効果が期待できます。

① 要介護者の方とご家族が同居して介護されている場合

夜間に何度も部屋を確認しに行っていたご家族が、手元のスマートフォン等で着床等を確認できるようになり、負担が軽減されます。また、出勤等による昼間の外出中にも、常に状況が確認

でき、安心して過ごすことができます。

② 別居して介護されている場合

転倒等による緊急時に、異常を感知した本機器がご家族にメールで連絡してくれます。また、要介護者自身も、マットを複数回叩くことにより、緊急のメールを送信することができます。これらにより、ご家族及び要介護者の心理的負担の軽減に繋がります。

また、利用者の方からは、「これまで1人で介護していたが、機器の導入により、遠方の家族も介護に参加してくれて、負担の集中感が軽減され、精神的に楽になった」との声もありました。

今後について

本市が目指す「高齢者の在宅生活の支援」のためには、こういった見守りの支援が必須だと考えています。本市では、こうした機器の利用実績を国に継続的に報告し、将来的には介護保険の対象として全国で広く活用されることを目指しています。

現在の貸与実績は累計で約25名ですが、今後より多くの方にご利用いただき、介護負担の軽減を感じていただくため、更なるPRに努め、実績を重ねていきたいと考えています。



【スマートフォンに表示される画面】

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
岡山市

【住 所】 〒700-8546
岡山県岡山市北区鹿田町一丁目1番1号

【担当所属・氏名】

医療政策推進課医療福祉戦略室
粕山／日下

【電話番号】 086-803-1638

【E-mail】 iryou-s@city.okayama.jp

人の心を豊かにし、介護の質を向上

株式会社知能システム



【アザラシ型ロボット・パロ】

パロの特徴

アニマル・セラピーは、人の心に楽しみや安らぎを与え、様々な効果がありますが、介護の現場では、アレルギー、噛付き・引掻き事故、人畜感染症、衛生問題等により、動物を管理・運用することが困難です。アザラシ型ロボット「パロ」は、人とのふれあいにより、アニマル・セラピーと同様に、様々なメリットをもたらすことが目的です。国内外の臨床評価や治験により効果のエビデンスが示され、各種医療福祉施設に導入されています。

特に認知症高齢者に対しては、過去のペット経験や子育て経験等を連想・回想させ、心の状態を穏やかにし、気分を向上し、ストレスを低減し、不安やうつや痛みや孤独感を改善し、昼間の傾眠を防止します。これらにより、徘徊や暴力・暴言等の問題行動を抑制・緩和し、睡眠の質を改善し、夜間の起き出し、歩き回りを低減します。言語機能の回復事例もあります。

パロは、触覚、聴覚、視覚（光）、温度、姿勢等のセンサを有し、7か所の静穏型アクチュエータ、10個のCPU、人工知能と学習機能、制菌加工の毛皮等で構成される高度なロボットです。

パロを次のような業務に活用できます。

- ・レクリエーション（定期的にパロと、楽しい時間を過ごします）
- ・要介護者のより良い理解（要介護者との会話を活性化、介護者が要介護者をより良く理解し、介護の質を高めます）
- ・認知症者の精神状態の安定化による、徘徊予防・抑制、暴力・暴言等の問題行動の緩和・抑制
- ・昼夜逆転の改善、睡眠の改善、夜間の起き出し・歩き回り予防、転倒予防
- ・トイレ時間待ち対応（早朝等、介護者が少ない時間帯に、同時にトイレの希望がある複数人に、順番にトイレに連れて行くと

め、パロとふれあってもらい落ち着いて待ってもらいます）

- ・動機付け（各種イベント、デイサービスのお迎え、入浴、リハビリ等の際に動機付けし、介護拒否や引きこもりを予防します）
- ・リハビリ支援（パロへの話しかけや、歌いかけにより言語機能、嚥下機能を維持・改善します。歩行訓練にも活用できます）

機器導入における実績・成果

- ・機器導入のサポート体制

日本国内の医療福祉施設向けのパロの販売代理店がパロの納品時に、施設職員等向けに、パロの目的、機能、利用方法、期待されるメリット、メンテナンス方法、困ったときの相談先（販売代理店、パロ・クリニック）等について研修しています。

- ・機器改良のための現場の状況を把握する体制

産業技術総合研究所と連携し、国内外でパロを用いる医療福祉施設・機関のユーザーや研究者が参加する「アザラシ型ロボット・パロによるロボット・セラピー」研究会を開催し、臨床評価や治験の結果、各種事例等を収集し、合わせて、今後のパロの改良のためのニーズや課題を調査・分析しています。

- ・機器改良についてのアクションや対策 など

パロの故障や不具合については、世界各地の「パロ・クリニック」で「シリアル番号」でパロとユーザーを管理し、サービスの提供と、将来に向けた改良の参考にしています。

今後の方針・展望 など

パロの「効果のエビデンス」と「費用対効果のメリット」を示し、国内外の医療福祉制度に組み込まれるようにし、医療福祉施設や在宅の要介護者の方々が、容易にパロを活用できるようにし、社会に貢献します。



【高齢者とパロとのふれあい】（産業技術総合研究所提供）

お問合せ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
株式会社知能システム

【住 所】 〒939-1865
富山県南砺市城端 4316-1 JEC ビル 3F

【担当所属・氏名】

総務部
海老沼 豊

【電話番号】 0763-62-8686

【E-mail】 info@paro.jp

日本初の自動制御機能付き歩行器

株式会社幸和製作所



【自動制御機能付き歩行器「リトルキーパス」】

より安全に「歩く」ための
ロボットテクノロジー

歩行補助車であるシルバーカーは日本発祥の文化であり、1970年に幸和製作所が日本で初めて開発した製品です。

以降、半世紀近く高齢者の歩行をサポートしてきた機器ですが従来品ではどうしても解決できない課題がありました。

それは、傾斜面での利用者へのサポートと転倒防止に対する対応です。車輪が付いている構造上、上り坂では平地よりも押す力が必要になり、下り坂では行き過ぎないようにブレーキ等で速度を調整する必要がありました。また、つまずき等で急に車体を押す力が加わってしまった場合には、その力で車体は前に進んでしまい、つまずいた利用者の身体を支えることができなくなることがありました。これらの課題をロボットテクノロジーの活用によって解決し、今まで以上に安心して歩ける自動制御機能付き歩行器「リトルキーパス」を開発しました。

より安全に「歩く」を実現させる
3つのセンサーと4つの機能

リトルキーパスには3つのセンサーを搭載しております。「角速度センサー」「加速度センサー」「静電センサー」の3つです。これらを駆使して、本器は4つの機能を発揮することができます。1つ目は角速度センサーにより、上り坂に差し掛かればその角度を感知し、角度に合わせたアシスト力を計算し、本体の重さを感じず歩きやすい丁度良い速度で進みます。また、下り坂でも同様に、傾斜を感知し角度に合わせて本体が前に進み過ぎないように速度を制御して進みます。また、この傾斜でのアシスト、制動の

強さは3つのモードから選べるようになっており、利用者の身体状況に合わせて設定することが可能です。

2つ目は坂道など傾斜がある道を横断する際に、その横傾斜を角速度センサーが感知し片流れが起こらないよう左右のタイヤの回転を制御し、坂道に対して垂直方向にまっすぐ進むことが可能です。

3つ目は加速度センサーにより、つまずき等による急な速度変化を感知し、自動で制動を行い利用者の転倒を防止することが可能です。

4つ目は静電センサーにより、利用者がハンドルに触れているときのみ作動するため、坂道でふとした拍子に本器から手を放しても、本器はその場に止まり動きません。

このような充実した機能により、リトルキーパスはご利用者により安全、安心、そして快適な歩行を提供することができます。

今後の展望

団塊の世代が75歳を迎える2025年がすぐそこに迫っています。厚生労働省の資料によると2025年には人口の30%以上が65歳以上の高齢者になると考えられています。

高齢者がより長く健康的で豊かな生活を過ごすために、介護現場で活躍する介護ロボットの開発を今後も進めて参ります。

私どもが開発した製品が幅広く活用されることで、高齢者の健康寿命を延伸させ、そして多くの笑顔を作り出すことが我々の願いです。



【歩行能力に合わせてサポートの強弱の設定が可能】

お問い合わせ先

【事業者名／自治体名／社名／団体名】
株式会社幸和製作所

【住 所】 〒590-0982
大阪府堺市堺区海山町3丁目159番地1

【担当所属・氏名】

営業企画部
新井 文武

【電話番号】 072-238-0630

【E-mail】 arai@tacaof.co.jp

広島県と連携した介護ロボットの県内全市町に対する普及活動

一般社団法人日本福祉用具供給協会 中国支部 広島県ブロック



【説明会】

県内最大規模の福祉用具展示会&セミナー

毎年、「福祉用具展示会&セミナー in 広島」と題したイベントを開催しています。これは、県内での福祉用具の普及・啓発、医療・介護の関連職種との連携のほか、一般の方々に対する情報提供ができる場とした企画イベントで、3回目となる今年度は、100社を超えるメーカー・団体に出席していただき、2日間で約1,600名の方々にご来場いただきました。

今回は、実際の介護ロボットを展示した特設エリアを設け、また、同会場で行ったセミナーでは、実際に介護ロボットを導入して活用している施設と私たち流通事業者がそれぞれの立場で議論する「介護ロボット活用の現状とこれから～県内での実証事例より～」と題したシンポジウムを開催し、導入を検討した経緯から、導入の過程、その後の問題点など、活用現場の生の声を聞ける内容で、参加者からも高評価をいただきました。

県内全市町で「介護ロボット導入支援事業」の説明会を実施

広島県では今年度、広島県地域医療介護総合確保基金を活用した「介護ロボット導入支援事業」（以下「本事業」）を実施しています。この事業は、介護従事者の負担軽減に資する介護ロボットが現状ではまだ高額である実態を受け、介護ロボットを導入する際にかかる経費の一部を補助することにより、介護環境の改善や介護人材確保につなげることを目的としたもので、これが当協会の活動の趣旨が合致していたことから、当協会が補助金を受けて実施・運営することとなりました。

この事業内容を広く周知し、介護ロボット導入を促進するため

に、当協会では、広島県内にある23市町全てにおいて、本事業の説明会を行いました。説明会には全会場あわせて600名を超える方にご参加いただくことができたことで、申請案件も飛躍的に伸び、現時点（平成29年1月30日現在）で270台（2,150万円）が申請されています。

介護・医療関連職種向けに研修会・各種イベントを開催

当協会では、介護関連団体のほか、地域で活動している介護者の会や、大学などの学校関連など、様々な団体に対して福祉用具の啓発活動を行っていますが、その中でも、特に連携機会の多い一般社団法人広島県介護支援専門員協会と共に「福祉用具の活用に関する研修会」を行っています。これは、実際に介護現場で活用ができるものを、見るだけではなく直接触ってもらいたいとの思いから「利用者・介護者の生活を支援するための福祉用具研修会 ～見て、さわって、使ってみよう～」と題して行っています。これまでに広島市、福山市、三原市と県内各地で行いましたが、多くの方にご参加いただいているほか、地元のニュースでも取り上げていただきました。今年度は、この場に介護ロボットを多く用意し、効果的に周知することができました。



【展示会】

お問合せ先

【事業者名/自治体名/社名/団体名】

一般社団法人日本福祉用具供給協会 中国支部 広島県ブロック

【住 所】 〒731-0124

広島県広島市安佐南区大町東1丁目18-44

【担当所属・氏名】

事務局
福永 美穂

【電話番号】 082-877-1079

【E-mail】 jimukyoku@fukushiyogu-hiroshima.jp

表彰式及びプレゼンテーションの様子

日時:平成29年 3月1日(水) 11:30~16:20

場所:TOC有明(介護ロボットフォーラム2016内イベント)

【主催者挨拶(優秀賞表彰式)】



テクノエイド協会
長田 信一 常務理事

【主催者挨拶(最優秀賞表彰式)】



テクノエイド協会
大橋 謙策 理事長



厚生労働省 老健局 高齢者支援課
小林 毅 介護ロボット開発普及推進官

【優秀賞表彰】

事業者部門



社会福祉法人シルヴァーウイング
石川氏



オリックス・リビング株式会社
森川氏、澤田氏



社会福祉法人練馬区社会福祉事業団
大泉特別養護老人ホーム
中迫氏、佐藤氏

メーカー部門



パナソニック エイジフリー株式会社
小森氏、久米氏



クラリオン株式会社
石井氏、井上氏

流通・普及支援部門



社会福祉法人名古屋市
総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ
長谷川氏、高木氏



社会福祉法人青森県社会福祉協議会
青森県介護実習・普及センター
工藤氏、青田氏

【プレゼンテーション】



社会福祉法人シルヴァーウイング
沼氏



オリックス・リビング株式会社
森川氏



社会福祉法人練馬区社会福祉事業団
大泉特別養護老人ホーム
中迫氏



パナソニック エイジフリー株式会社
小森氏



クラリオン株式会社
井上氏



社会福祉法人名古屋市
総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ
富板氏



社会福祉法人青森県社会福祉協議会
青森県介護実習・普及センター
青田氏



表彰式全体記念撮影

最優秀賞は、平成 29 年 3 月 1 日に行われました優秀賞案件 8 件の最終プレゼンテーション後、介護ロボット導入好事例表彰事業検討委員及び一般審査委員により、総合的に審査の上、決定されました。

公益財団法人 テクノエイド協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階

TEL:03-3266-6883

E-mail:robot@techno-aids.or.jp

介護ロボット導入好事例表彰事業 公式ウェブサイト <http://www.kaigo-robotaward.jp/>

平成28年度 厚生労働省 老人保健健康増進等補助事業



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

<http://www.techno-aids.or.jp/>